

重点目標	番号	評価項目	評価者	アンケート項目	A	B	C	D	■ そう思う ■ ややそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない	昨年度改善策	自己評価(取組状況・成果・課題)	今年度改善策
基礎基本の定着と伝え合う力を育てる	1	言語活用能力の育成 (読む力)	教師	読みとる力を育てる指導を行っている。	57	39	4	0	教師	<p>各教科や特別活動等教育活動全体の中で、引き続き研究の成果を生かし、積極的に「読む」「書く」「話す」「聞く」力をはぐくむ取組を進める。</p> <p>「書く・話す」活動を行う場面を確保しつつ、児童のよかった点、上達した点を取り上げてほめたり励ましたりすることを通し、児童に自信を持たせる。</p> <p>授業の中で、「話し合い活動」を積極的に取り入れ、互いの考えを発表し合う中で、課題を解決していく楽しさを感じさせたい。発表に対する意欲や、必然性を高めることができるよう授業の展開を工夫する。</p> <p>研修会や学習会への参加や、それらの環流報告等を行い、分かる授業、楽しい授業づくりを継続する。</p> <p>基礎的な内容を定着し維持するため、家庭と連携し、家庭学習に取り組ませる。家庭と連携し、学習習慣の確立を促すために、「家庭学習の手引き」や「家庭学習カード」を十分に活用していく。各種通信や懇談会をとおして保護者の理解を図り、協力をお願いする。</p> <p>学習内容や体験的な活動を通して、発達段階に応じた「読む」「書く」「話す」「聞く」等の力の育成について、保護者の理解を図る。</p>	<p>昨年よりも「読む」「書く」「話す」「聞く」「わかる授業」のどの項目においても、そう思うの数値が上がっている。積極的に取り組んできたことで、児童にも自信が付き、成果が見られた。</p> <p>「話す」活動においては、保護者・児童の評価が、他項目に比べて低い。要点をまとめて話すことや順序や組み立てを考えながら話すこと、「話し合い活動」を充実させることが必要である。</p> <p>「読む」「書く」「話す」においては教師の評価よりも保護者・児童の評価が低い。「書く」「話す」が苦手な児童に対して苦手意識をもたないような取組や、日常生活での習慣づけなどを行っていく必要がある。</p> <p>全体的に保護者のあまりそう思わないの値が高い。できない児童に対する取り組み、支援をしていくことが重要である。</p>	<p>これまでの取り組みで成果がみられたので、今後も各教科や特別活動全体の中で「読む」「書く」「話す」「聞く」力を育ていくことを意識的に行っていく。</p> <p>「話す」活動については、ペアやグループでの「話し合い活動」を今後も積極的に行っていくとともに、全体の場で話すことに自信がもてない児童に対して、「考えたい」「考えを話したい」と思えるような課題設定を工夫したり、考えをほめて認める機会を増やしたりして、自信をつけさせていく。</p> <p>「読む」「書く」「話す」力について、一人一人の実態把握を今後も積極的に行い、実態に応じて指導の仕方を変えていく。また、わかる授業づくりのために、基礎・基本の学習を繰り返し行うなど定着を図り、児童が学習に対して主体的に取り組めるように今後も心がけていく必要がある。</p> <p>家庭学習への取り組みについては、保護者が積極的に関わる家庭と関われない家庭の差があるので、手立てを考え、どの児童も意欲的に家庭学習に取り組むことができるような環境づくりをしていく必要がある。</p>
			児童	文章や図表などを正しく読み取ることができる。	47	43	7	3	児童			
			保護者	子どもは文章や図表などを正しく読み取る力が育っている	50	33	15	2	保護者			
	2	言語活用能力の育成 (書く力)	教師	書く力を育てる指導を行っている。	52	48	0	0	教師			
			児童	自分の考えをまとめて書くことができる。	45	34	17	4	児童			
			保護者	子どもは自分の考えをまとめて書く力が育っている。	41	33	22	4	保護者			
	3	言語活用能力の育成 (話す力)	教師	伝え合う力を育てる指導を行っている。	48	48	4	0	教師			
			児童	理由をはっきりさせて自分の考えを発表できる。	32	34	26	8	児童			
			保護者	子どもは理由をはっきりさせて自分の考えを発表する力が育っている。	39	35	22	4	保護者			
	4	言語活用能力の育成 (聞く力)	教師	聞く力を育てる指導を行っている。	39	52	9	0	教師			
			児童	自分の考えと比べながら聞いている。	52	29	14	5	児童			
			保護者	子どもは自分の考えと比べながら聞く力が育っている。	46	31	21	2	保護者			
	5	わかる授業の展開	教師	達成感のあるわかる授業・楽しい授業を行っている。	66	30	4	0	教師			
			児童	授業はわかりやすく楽しい。	65	24	7	4	児童			
			保護者	子どもは授業の内容がわかっている。	57	31	11	1	保護者			
一人ひとりを大切にしたいきめ細かな学習指導	6	一人ひとりを大切に学習指導	教師	T.T少人数指導など学習形態を工夫している。	56	35	9	0	教師	<p>今以上に子どものニーズに合わせたきめ細かい指導を行うと共に、校内研究などで外部講師を招聘したり、教職員評価や一人一実践を活用して教師のスキルアップを図っていく。また学校の取組をホームページや学校便りを使って児童や保護者に広く知らせていく。</p> <p>教育課程を洗い出し、今後外部講師の活用できる単元のピックアップや市や県の外部講師推進事情を積極的に活用していく。</p> <p>評価のための評価ではなく、目立たない努力や学習感想などを取り上げるなど活用して、児童が意欲的に取り組むような評価を心がける。</p>	<p>昨年度に比べると、外部人材については、教師の評価はやや低くなっているが、児童や保護者の評価は高くなっている。</p> <p>6・7については、教師よりも児童・保護者の方が評価が高い。</p> <p>「そう思う」「ややそう思う」を合わせると、ほぼどの項目も90パーセントの割合の高い評価であった。</p> <p>これらのことから、3年間の研究の指定で取り組んできた、学習指導や意欲を高める指導が児童や保護者の評価につながっている。</p>	<p>児童の実態を細かく把握し、実態に合ったきめ細かい指導を行うとともに、校内研究などで外部講師を招聘したり、教職員評価や一人一実践を活用して教師のスキルアップを図っていく。</p> <p>新学習指導要領を見越して、教育課程の洗い出しを行い、外部人材の活用できる単元のピックアップや市や県の外部講師推進事業等を積極的に活用していく。</p> <p>また、学校の取り組みをホームページや学年便りを使って児童や保護者や地域に広く知らせていく。</p> <p>児童が意欲的に取り組めるよう、教師が児童の努力や感想などを取り上げたり、保護者にも呼びかけ励ましの言葉などをかけてもらうようにする。</p>
			児童	授業の中で先生に個別に教わるとわかりやすい。	68	20	8	4	児童			
			保護者	学校が行っている個別指導や少人数指導は子どもたちにとって理解しやすい。	60	30	9	1	保護者			
	7	外部人材の活用	教師	保護者や地域人材による学習ボランティアや外部機関の専門家を活用し学習効果を上げている。	39	35	26	0	教師			
			児童	授業などで学校の先生以外の方から、教わることは楽しい。	69	20	8	3	児童			
			保護者	保護者や地域人材による学習ボランティアや外部機関の専門家の活用は学習効果を上げている。	54	34	10	2	保護者			
	8	学習意欲を高める評価	教師	個々の努力や成果を認め、励まし伸ばしている。	65	26	9	0	教師	<p>学校関係者評価でいただいた意見等</p> <p>○外部人材が今年度は少なかったように見える。</p> <p>○先生方は外部人材に気を遣いますか。</p> <p>○5・6年も講演会に参加したのはよかった。</p>	<p>学校関係者評価でいただいた意見等</p> <p>○話す力と言葉づかいが連動しているように思える。言葉づかいはテレビなどの影響が大きいのかと感じる。周りもきれいな日本語を使っていく。</p> <p>○自分の思いを外に出す項目が低いのが気になる。自分に自信がないのか...家庭でも力を入れる。</p> <p>○少人数ではいいが全体の前ではできていないと判断していると思う。</p> <p>○仲のいい集団になればなるほど、いえない子もいる。友達だから遠慮している面もある。児童の評価が低いのは仕方ないのかもしれない。</p> <p>○今の子どもたちは複雑。</p>	
			児童	先生は努力したことをみとめ、励ましてくれる。	64	27	6	3	児童			
			保護者	学校は子どもの良いところを認め、伸ばそうとしている。	64	26	9	1	保護者			

重点目標	番号	評価項目	評価者	アンケート項目	A	B	C	D	■ そう思う ■ ややそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない	昨年度改善策	自己評価(取組状況・成果・課題)	今年度改善策
温かく豊かな生活環境をつくる	9	あいさつ運動の推進	教師	自ら進んであいさつができるよう指導している。	66	30	4	0	教師	<p>来校者への会釈や気遣いなど、各学年の児童の実態に応じた挨拶ができるように継続して指導していく。</p> <p>学校からのお便りなどであいさつ運動の取り組みなどを紹介し、保護者や地域の方などからも今後も引き続き声をかけていただくようお願いする。挨拶の習慣化を図っていく。</p> <p>教師も手本となるように一人一人が意識する。(毎朝教師が校門に立って挨拶してほしいという保護者の要望もある。)</p>	<p>今年度は、児童会活動として、「オアシスコサ運動」に取り組んだ。これは、「おはよう」のあいさつだけではなく、「ありがとう」や「こんにちは」などのあいさつも活発にしていることというねらいがある。その結果、学校にいる間は、子どもたち自身が率先してあいさつする姿勢が芽生えてきたように思う。しかし、旗振りの方や地域の見守り隊の方々へのあいさつが不十分であるという課題も残った。</p>	<p>あいさつは生活の基本であると捉え、今年度取り組んできた児童会活動や委員会における「あいさつ運動」を継続して取り組んでいく。その際、学校にいる間だけでなく、学校外でも進んであいさつできるよう指導する。</p> <p>他者への感謝の気持ちを、全校・各学級で育て、進んで挨拶する姿勢につなげていく。また、教師も手本となるように一人一人が意識する。</p>
			児童	まわりの人に進んであいさつをしている。	71	20	5	4	児童			
			保護者	子どもはあいさつがよくできている。	53	29	16	2	保護者			
	10	言語環境の充実	教師	正しい言葉づかいができるよう指導している。	57	39	4	0	教師	<p>日頃から、教師は常に正しい言葉づかいを意識して心がける。また、子ども達の言葉づかいに耳を傾け、敬語なども必要に応じてその場で適切に指導する。</p> <p>クラスや校内の掲示物などの子どもたちの言語環境を整えたり、家庭へも言語環境づくりの協力をお願いしたりするなど具体的な手立てを考える。</p>	<p>委員会活動の場での正しい言葉遣いができていないことが見られた。また、友達に対しての言葉遣いから始まるにもトラブルもあった。各クラス等で言葉遣いに対する指導はしているが、言葉遣いを系統的に指導したり、学級間・学年間の共通理解が不十分な部分はあった。また学校だけではなく、家庭での家族での言葉遣いも大切である。</p>	<p>日頃から、教師は常に正しい言葉づかいを意識して心がける。学年、学校全体で言葉遣いについて共通確認し、集会や会議、放送などの「公」の場での正しい言葉遣いと友達との間で使う「温かい言葉遣い」を日常から教える。また家庭教育における言葉遣いの大切さを啓もうしていく。</p>
			児童	正しい言葉づかいに気をつけている。	47	35	12	36	児童			
			保護者	子どもはその場にあった正しい言葉づかいをしている。	46	34	18	2	保護者			
	11	道徳教育の充実	教師	思いやりの心や命を大切にすることを育てる指導をしている。	57	43	0	0	教師	<p>道徳教育に関する現状や児童が抱える問題などについて全職員の共通理解を図り、道徳の時間をさらに充実させられるよう話し合う機会を持つ。引き続き、保護者や地域に道徳の時間を公開する。また、「私たちの道徳」を定期的に家庭に持ち帰ることで、道徳の時間の学びを保護者に伝えたり、家庭でもその内容を話し合う機会をつくらせたりする。各教科での道徳的な指導についてもどのように関わっていくか学年で話し合う機会をもつ。</p>	<p>道徳教育の充実については、昨年度と比較すると教師の評価が低くなっているが、反対に保護者の評価が上がっている。思いやる心を大切にしながら日々の取り組みが成果につながっているのではないかとと思う。</p>	<p>教育活動全体を通して、心の育成を図る。また、毎週一時間の道徳の時間を確保し、年間指導計画をもとに道徳の授業を行ったり、必要に応じて児童の実態に合わせ柔軟に対応したりするなど、授業を大切にしている。</p>
			児童	友達と仲良く生活している。	73	18	6	3	児童			
			保護者	思いやりの心や命を大切にすることが育っている。	65	27	7	1	保護者			
	12	児童理解	教師	子どもの悩みや相談を積極的に聞いている。	74	26	0	0	教師	<p>児童と向き合える時間の確保を図るとともに、職員間の情報交換を積極的に行い、連携していく。また、必要に応じてケース会議をもち、スクールカウンセラー等の専門家を活用し、様々な角度から支援を行えるようにする。</p>	<p>可能な限り、子どもたちと向かい合う時間を確保したり、子どもたちの日々の様子から、子どもたちの変化や問題の発見に努めたりしてきた。しかし、子ども一人一人を見ていくと関わりが十分ではないと考えられる場合もある。</p>	<p>今年度と同様、スクールカウンセラーなど専門家を活用したり、外部の機関と連携し、問題を抱えている児童の支援を行う。また、家庭との連携を密にし、児童理解に努める。</p>
			児童	先生は困ったときに話を聞いてくれる。	68	23	6	3	児童			
			保護者	子どもは先生を信頼している。	75	18	6	1	保護者			

学校関係者評価でいただいた意見等

- 道徳教育は今ほどなかんじでしょうか？
- 子供たちは道徳を意識している。
- みんな声をかけるようになってきた。
- 慣れてくるまでは抵抗はあるようだ。あいさつは周囲の影響でできるようになる。
- 先生達だけではなく周りの姿勢が大切。

運動に親しみ健康な体づくりをめざす	13	楽しい充実体育授業	教師	個々の能力に応じた運動に取り組ませている。	26	61	13	0	教師	<p>今後も継続して個々の能力に応じた運動の場の設定や、体力向上のための運動量の確保をしていく。また、指導力向上のために、各種資料を参考にしたり、研修に参加したりする中で、よりよい体育授業を目指す。</p>	<p>ほとんどの児童が体育の授業は楽しいと感じている。また、保護者も子どもたちが体育を楽しみにしていると評価している。教師も肯定的に評価しているが、個々の能力に応じた運動を授業で工夫しつつある。</p>	<p>今後も継続して個々の能力に応じた運動の場の設定や、体力向上のための運動量の確保をしていく。また、指導力向上のために、各種資料を参考にしたり、研修に参加したりする中で、よりよい体育授業を目指す。</p>
			児童	体育の授業は楽しい。	83	11	3	3	児童			
			保護者	子どもは体育を楽しみにしている。	77	17	5	1	保護者			
	14	体力向上	教師	体力向上の手立てを講じている。	35	52	13	0	教師	<p>引き続き一校一実践「国母フィジカルUPプラン」のなわとび運動や、ストレッチ体操に取り組み、体力の向上を目指す。また、苦手克服のための水泳教室なども開催し、体力の底上げを図る。</p>	<p>3者ともに肯定的な評価をしている割合が高い。一校一実践に継続して取り組んできた成果だといえる。のびのびストレッチや縄跳び等に継続して取り組んできたので、新しい活動も今後入れていくと、さらに良い。</p>	<p>引き続き一校一実践「国母フィジカルUPプラン」のなわとび運動や、ストレッチ体操に取り組み、体力の向上を目指す。また、体力測定の結果、少し落ち込んでいる種目は意識して体育の活動の中に取り入れていく。</p>
			児童	運動することや、外に出て遊ぶことは楽しい。	79	16	4	1	児童			
			保護者	子どもの体力がついてきたように思う。	70	21	8	1	保護者			
	15	健康教育の充実	教師	食育・健康教育を計画的に行っている。	52	35	13	0	教師	<p>児童の健康や食に対する意識をさらに高めていけるよう、家庭とも連携をとり、計画的な指導を続けていく。また、食物アレルギーや感染症予防についても、実践的に学ぶ機会を設ける。</p>	<p>発育測定や給食時に、養護教諭や栄養教諭から児童が直接話を聞く時間を設けるなど、計画的に指導を重ねてきた。各学級や家庭への資料や頼りの配布により、年間を通して健康や食に対する関心を高めることができた。夏休みには、教職員の食物アレルギー(エビペン)研修会を行い、実践的な対処の手法を学んだ。</p>	<p>児童の健康や食に対する意識をさらに高めていけるよう、家庭とも連携をとり、計画的な指導を続けていく。また、食物アレルギーや感染症予防についても、実践的に学ぶ機会を設ける。</p>
			児童	食べ物や健康に気を付けて生活している。	63	24	9	4	児童			
			保護者	子どもは食べ物や健康に気を付けている。	51	31	15	3	保護者			

学校関係者評価でいただいた意見等

- 教師の評価が低いのが気になる。
- 成績表の見せっこ。逆上がりができるようになったのに成績が上がってなかった。通信票を見て、子どもにアドバイスをあげられる親は素晴らしい。

重点目標	番号	評価項目	評価者	アンケート項目	A	B	C	D	■ そう思う ■ ややそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない	昨年度改善策	自己評価(取組状況・成果・課題)	今年度改善策	
自分の身を守る力を育てる	16	危機管理能力の育成	教師	防災・防犯訓練を生かして、危機管理指導を行っている。	70	30	0	0	教師		<p>児童の防災防犯意識を高めるために、今後も継続して訓練を実施していく。また、保護者に向けて、学校での取り組みや国母地区周辺の防犯状況などを通知や懇談会等で発信して、危機管理についての啓発を行う。</p>	<p>教師の危機管理指導についての意識、児童の危機管理に対する理解は、昨年度と同様に高い。保護者も同様のことがいえるが、昨年度に比べて「そう思う」の割合が30%近く増えた。自然災害や不審者による事件などが多く聞かれる昨今の社会状況の中、学校での指導、家庭での言葉かけ等が全体の意識の向上につながっている。</p>	<p>定期的に行う防災防犯訓練で事前事後の指導を丁寧に行い、児童の自覚を促す機会とする。また、社会の中で起こっていることを受けて折にふれ、取るべき行動について学級で話し合い、意識を持たせる。保護者と国母地区周辺の防犯状況について連絡を取り合い、地域との連携の中で児童の危機管理能力を高める。</p>
			児童	地震や火事、こわい人への対応がわかる。	77	16	5	2	児童				
			保護者	子どもは防災・防犯に対して、どのように対応するかわかっている。	62	29	8	1	保護者				
	17	交通安全指導	教師	登下校の安全指導を日常的に行っている。	61	30	9	0	教師		<p>今後も、児童の安全な歩行や自転車の乗り方について、交通安全教室や町地別児童会で指導を行っていく。また、地域や保護者からの情報をもとに、学年・学級でも児童の実態に応じた指導を継続して行っていく。</p>	<p>登下校時、安全に気を付けていると自覚している子どもの割合が多く、子どもたちが安全に気を付けていると思う保護者の割合も多い。学校や家庭での呼びかけや、交通安全教室や町地別児童会での指導の成果であると思う。教師の取り組みとして、日常的に安全指導が行うことができていると思う割合が約1割であることが課題である。</p>	<p>日常的に指導を行い、定期的に子どもたちの登下校に付き添う。また、学年ごと集団での下校を呼びかけ下校の様子について教師が把握し、必要に応じた指導を行う。</p>
			児童	交通ルールを守り、安全に登校している。	82	15	2	1	児童				
			保護者	子どもは登下校の安全に気を付けている。	65	28	6	1	保護者				
	18	安全管理	教師	子どもの安全に気を配っている。	79	17	4	0	教師		<p>学校内外の事件・事故・災害等の危機に対応する防衛策や迅速な対応策を講じるため、学校・保護者・地域並びに関係機関との連携をとるとともに、今後も各マニュアルの見直しや検証を進めていく。また、学校における訓練や指導についての情報発信を行い、学校外の危機への対応について考えてもらうようにする。</p>	<p>防犯教室で不審者の侵入を想定した避難の仕方を学び、児童が教室内で速やかに避難体制がとれるようになった。近隣で起きた事件を知らせるマメルメールを適宜発信することができ、保護者と連携して、安全管理に努めることができた。</p>	<p>今後も学校内外の事件・事故・災害等の危機に対応する防衛策や迅速な対応策を講じるため、学校・保護者・地域並びに関係機関との連携を強化していく。</p>
			児童	学校は安全だと思う。	70	20	6	4	児童				
			保護者	学校は子ども達の安全に配慮している。	74	21	4	1	保護者				

学校関係者評価でいただいた意見等

- 家に帰ってからの自転車の乗り方。左右見ないでとび出す。自転車の乗り方の指導を徹底してほしい。
- 登校班や下校時はしっかりできているので、放課後の交通安全を。
- 危機管理については児童だけでなく職員も児童を見られるように、学校全体での話し合いをもってほしい。
- 対応を間違えると大変になるので、子どもを守るために取り組んでほしい。
- 社会に出て行けるように指導してほしい。
- 現役の親として、先生が迎えに行くような状況を作ってはいけない。親がどのような対応をとるのが大切。親が平気でいられるのが不思議。
- 学校に行っている安心感をなぜ感じないのか。

保護者・地域との連携・交流を充実する	19	地域の参加・協力	教師	地域行事に参加している。	65	35	0	0	教師		<p>引き続き地域行事等への参加を呼びかけるとともに、職員も積極的に参加する。</p>	<p>今年度は「育てよう豊かな心」の講演会に5・6年生も参加させていただき、成果を上げることができた。また、河川清掃など教師も参加し子ども達や保護者と交流しながら活動することができた。</p>	<p>引き続き、積極的な参加体制を構築し、小中学校の連携も密にしていきたい。</p>
			保護者	学校は地域や保護者と積極的に交流・連携をとろうと努力している。	70	23	6	1	保護者				
	20	情報発信	教師	学校の教育活動を保護者や地域に知らせ理解を得ている。	61	35	4	0	教師		<p>引き続き学校だよりやホームページ等で情報発信していく。</p>	<p>定期的な学校・学年だよりの発行、またホームページの更新をすることができた。</p>	<p>学校全体の行事等については、ホームページにアップすることができたので、今後は学期1度程度、学年事の様子をホームページで発信していけたらと思う。</p>
			保護者	学校便りやホームページから、学校の様子がよくわかる。	65	26	9	0	保護者				
	21	保護者の信頼から	教師	保護者の相談にすばやく対応している。	78	22	0	0	教師		<p>引き続き地域行事への参加や情報発信を通して、保護者や地域との連携協力を図りながら、話しやすい環境づくりに努める。(効果的な呼びかけの工夫)</p>	<p>昨年度の反省を元に取組を行ったところ保護者からの回答に大きなポイントの上昇が見られた。</p>	<p>引き続き、教師側からの情報発信や連絡を密に取ることを続け、教師側と保護者側のポイントの差を埋めていきたい。</p>
			保護者	学校に保護者や子どものことを気軽に相談できる。	61	27	11	1	保護者				

学校関係者評価でいただいた意見等

- 地域に出て行かない、学校に出て行かない保護者が課題。
  - 親が外に出る時間がなくても必死に働いている姿を見せるのも大切。
  - 地域のお祭りや行事など参加要請があつて参加するので評価が高い。
  - 地域のリーダーが大切。
  - 小さいころから地域を感じさせる。
  - 先生方は大変な仲良くやってくれてありがたい。
- ☆その他
- 先生方の労働力はとても大変だと思う。